

学区の概要

滝沢市立姥屋敷小・中学校

1 プロフィール

(1) 学区の位置と概要

本学区は、滝沢市の中西部、岩手山の麓に位置し、標高 363m と高く、戦後に開拓入植され、酪農、高冷地野菜生産などの農業専用地域である。

初霜は10月上旬、初雪は11月上旬、降雪量が多く、残雪は4月中旬まで見られる。

岩手山麓に広がる自然森林は市の水資源を涵養し、また、春子谷地湿原をはじめ、各所に水芭蕉や座禅草群落などがあり、貴重な動植物が生息している。地域は、雄大な自然を背景に、鞍掛山、相の沢牧野などの地域資源も豊かである。

昭和 57 年には「豊かな村づくり」全国表彰天皇杯を受賞した地域環境づくりの盛んな地域であり、地域看板や水仙ロードの整備などの取り組みがなされ、平成 18 年には自治会主導で滝沢村の支援を受けながら地域住民の奉仕作業により、地域の生活道路の拡幅整備を完工した。

平成 19 年度にはこれまでの取り組みが評価され『岩手県まちづくり地域 100 選』に指定されている。

一方においては、本地域は人口移動が少なく、少子高齢化が進行しており、今後は若者の定住促進が望まれている。また、地域活性化の観点からは、小岩井農場の延長上にある、相の沢地域を中心に観光客を呼ぶ仕掛けづくりやアクセスの容易性が求められている。さらに、地域環境の整備の取り組みを継続するとともに、ごみ不法投棄対策、家畜糞尿対策が必要となっている。

学区は、姥屋敷、臨安、沼森、花平、鬼越の 5 地区からなり、子ども会の単位は、沼森と花平が合同で活動しているため、4つの子ども会となっている。世帯数はおよそ 80 戸で、酪農や農業が盛んであり、大規模経営も見られる。

P T A は、保護者が正会員、地域住民が特別会員として組織され、運動会は学区民運動会として位置付け、保育所幼児から小中学校児童・生徒、保護者、地域住民、青年会、高砂会の高齢者までが一堂に会して盛大に実施されている。また、文化祭、卒業を祝う会なども地域住民が多く集うなど、地域住民、保護者の教育に対する関心は高く、学校に対して非常に協力的である。

(2) 学校の住所等

〒020-0685

住 所 岩手県滝沢市鶴飼安達 117-19

電 話 019-680-2401

F A X 019-680-2004

E-mail uba-es-jhs@takizawa-ed.iwate.jp

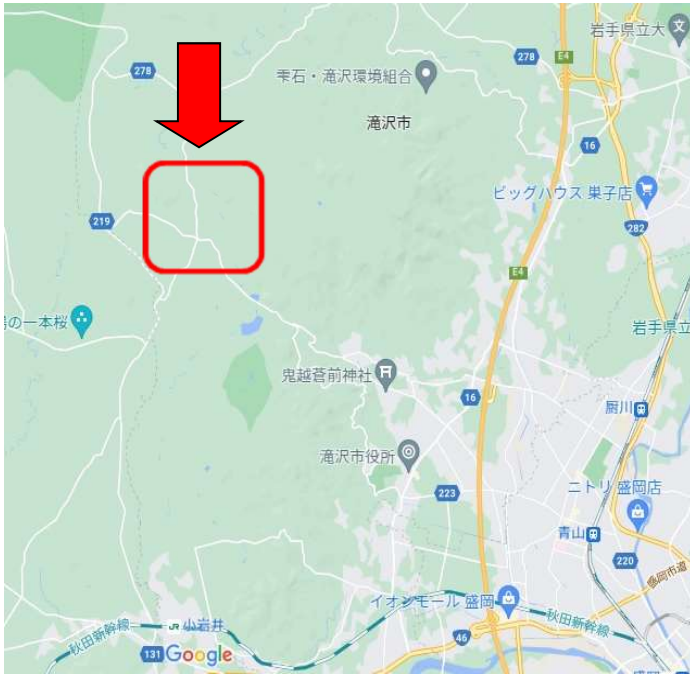


水芭蕉



春子谷地湿原

2 姥屋敷の名前の由来と学区図



「姥屋敷」という地名の由来であるが、小学校跡地の掲示板には、「前九年の役で安倍貞任が源義家に敗れ、貞任の姥（異母妹）が落ちのびて住んだことから地名<姥屋敷>が生まれた」とある。

岩手山麓の小岩井農場とその周辺は、賢治が好み、何回も訪れ歩いた所である。「春と修羅」に収録された「小岩井農場」は賢治の代表的な詩の一つである。

小岩井農場を抜け、姥屋敷集落を経て鞍掛山に至る道は賢治の散策路で、詩や童話の舞台になった所は数しれない。狼森（オイノもり）、笹森（ざるもり）、盗森（ぬすともり）、それに黒坂森というのは、実際に小岩井農場の北にある四つの森（岩手では森は低い里山のこと）の名前である。

この奇妙な名前の組み合わせに想像力を刺激されて、この森に囲まれた野原に作られた集落の始まりの物語という形で賢治が語ったのが『狼森と笹森、盗森』。姥屋敷はこの村建ての話のモデルだと思われ、今でも人と森、動物が共生している雰囲気を漂わせている集落である。



新鬼越池からの
岩手山の眺望